

資本の本質—その支配の特徴と限界

鎌倉 孝夫

はじめに 新型コロナパンデミック

(1) くり返される感染症パンデミック

SARS、MARS、COVID・19

・資本のグローバルな展開—自然法則かく乱

(2) 人間生活・人間労働の危機

・直接的人間関係—人間的生活 医療・介護・福祉・教育の危機

・労働のデジタル化・ギグワーク—人間労働の物化・資本による自由な操作—首切り、失業、労働時間操作

(3) 株価異常上昇→格差拡大

・コロナ対策の財政支出増大—インフレマネーつぎ込みが株価を引き上げる。

・株価を引き上げるためのインフレマネーつぎ込み。

・寄生的不労所得者の金儲け、社会を支える労働者の労働苦・貧困・生活危機。

1. 資本の本質—流通形態としての資本

(1) 商品

・価値—対価を求めて交換に出す。

・使用価値—人間にとって欲求を充たす物。有用な性格。

・商品の使用価値—価値を制約する。他人のための使用価値。その使用価値が他人から求められないと、交換はできない(売れない)。

(2) 貨幣—どんな商品でも直接買いうる性格をもつ特殊な商品

(一般的等価)

・購買手段

・流通手段—通貨・紙幣、国家紙幣・中央銀行券—インフレーション

・資金—蓄蔵紙幣・支払手段・世界貨幣

(3) 資本—流通運動、カネ儲けを目的とするカネの運動

①資本の発生、流通を媒介する流通運動。

②利己的利潤追求、獲得が目的。

・儲かるか儲からないかが行動基準。

・弱肉強食

③利潤獲得に限度はない。

④三形式

商人資本 $G — W — G'$

金貸資本 $G \cdots \cdots G'$

産業資本 $G — W \begin{cases} / P_m \\ \cdots P \cdots W' — G' \\ \backslash A \end{cases}$

⑤産業資本の社会的成立—労働力の商品化

・労働力—労働する人間=労働者自身の能力、その能力の発揮が「労働」

・労働を行うには、生産手段（労働対象・労働手段）が不可欠

・「労働力」の商品化（「労働」の商品化ではない）

自分の労働力を自分自身で使えない—労働力を持つが、それを発揮する生産手段を持たない—自分自身で「労働」できない。

（物を作って売ることができない）

・生産手段を所有する者に、「労働力」を売る。「労働力」は買った者の所有となる。

・買い手（資本家）の権利と売り手（労働者）の権利の対立

—その対立の基本は、カネの権利と人間の生きる権利（人権）の対立—

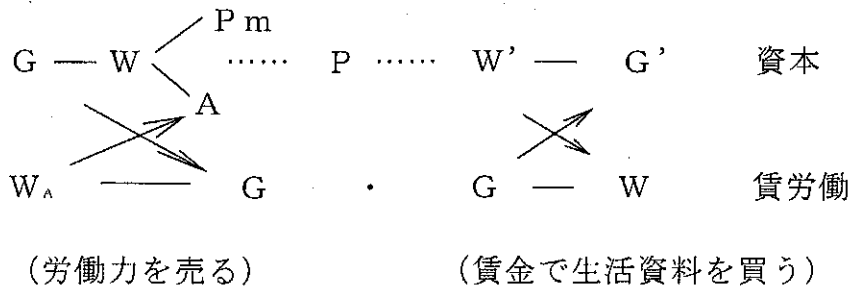
*労働力の商品化—特殊歴史的条件（本源的蓄積）が必要。商品経済の発展だけによるのではない。流通運動（それ自体自立的根拠を持たない）が、社会の本来の存立・発展根拠（実体）・その主体を商品経済の下に包摂すること—それには国家の暴力が不可欠であっ

た。

- ・特に人間固有の、個々人自身の能力である労働力を他人に売って、その他人の支配・命令の下で、他人の意図に従って働かなければならないこと。(近代的自己疎外)

2. 資本—賃労働者の基本関係

(1)



(2) 「賃金」とは一労働力商品化の特徴・「無理」をとらえる。

- ・労働者自身の能力を、自分自身で使えないこと(自己疎外)
- ・買った者(資本家)の所有となる—しかし買った者が労働力を「自由」に使ったら、労働者の生きる権利は奪われる。労働者が生きるためには「労働」しない時間、生活時間(休む時間)が不可欠。労働する時間—労働力の消耗。労働しない時間—生きるために不可欠な生活資料の獲得・消費が必要。

(3) 資本の蓄積と労働力の制約

①絶対的剰余価値の生産とその制約

労働時間の延長—無制限な延長は労働力の再生を不可能に。

労働強化—労働強化は労働力消耗の強化、労働力再生産を不可能に。

②相対的剰余価値の生産

- ・協業・分業・機械の導入—「労働」の物化、操作の自由化。
- ・資本主義における機械導入の製菓。固定資本の制約。

③恐慌の必然性

- ・カネをかけない剰余価値生産の拡大—労働時間延長・労働強化
- ・労働力の制約—賃金上昇—剰余価値減少→恐慌

恐慌は、労働力商品化の無理（資本によって自由に供給を増やせない。労働者自身の生活にかかっている）による剰余価値生産の制約による。

（好況—生産拡大の制約）

（４）恐慌を回避する資本形態の発展

①商業資本、貸付資本—産業資本に依存

②「それ自身に利子を生む資本」—所有するだけで利得を生む資本の理想形態

・しかしそれは「現実」資本としては無理

→擬制資本 Fiktires Kapital.による。

・擬制資本。株式資本と土地価格

企業（現実資本）の利潤を利子とみなし（擬制）、それを生んだ資本が犠牲される。

株式価格	<u>配当（利潤）</u>
	利子率
土地価格	<u>地代</u>
	利子率

・資本の二重化、現実資本と擬制資本

③株価—擬制資本が主役となった現代資本主義

・企業行動、中央銀行・国家の政策が株価上昇を目的とする現代。

・株価至上主義の下での利潤至上主義—その下での実体経済・その本来の主体である労働者・勤労者の生活破滅

3. 実体の主体を現実の主体とする社会＝社会主義の実現

参考：鎌倉孝夫『資本主義とは何か』 労働者学習センターブックレットNo.9

同 『資本論エッセンス』 時潮社